カンボジア王国　「分娩時および新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」
～ Project for Improving Continuum of Care with focus on Intrapartum and Neonatal Care in Cambodia (IINeoC Project)～

ニューズレター 第16号
2017年11月

初めまして、皆さんこんにちは！10月からインターンとしてIINeoCプロジェクトに参加している鈴木絢子です。カンボジアに来て約2ヶ月が経ち、こちらのの生活にも慣れ毎日楽しく過ごしています。首都プノンペンでも、公共の交通機関はまだあまり発達していませんが、最近はスマートフォンアプリでタクシーを簡単に呼ぶことができるサービスも出て来ました。毎日アプリで三輪タクシー（トゥクトゥク）を呼んで、プロジェクトオフィスのある国立母子保健センターへ通っています。

11月には祭日を利用してシェムリアップを訪れました。11月はカンボジアでは雨季が終わり乾季へと季節が変わるシーズンで、満月の日とのその前後3日間に渡り、乾季の到来を祝う水祭りが毎年開催されます。水祭りの期間はカンボジアの祭日で、今年は11月2日から4日に開催されました。シェムリアップではお祭りのメインイベントであるボートレースが行われ、多くの人で賑わいを見せていました。

シェムリアップ川で行われたボートレース

約3か月のインターンシップ期間も半分を過ぎましたので、今号のニューズレターではこれまでの私の活動報告をさせて頂きます。

インターンシップ活動報告　　鈴木絢子（活動期間：10月10日～12月29日）

1．コンポンチャム州病院における早産児を対象とした、新生児室退院後のフォローアップ外来に関する現状調査

早産で生まれた赤ちゃんは身体発育だけでなく、精神神経発達障害のリスクが正期産の赤ちゃんに比較して高く、注意深いフォローアップが必要です。プロジェクト対象州であるコンポンチャム州の州病院では2017年1月より新生児室を退院した早産の赤ちゃんを対象にフォローアップを行う外来を無料で提供しています。昨年、プロジェクトのカウンターパート研修に参加した同病院医師が、日本での学びを生かして帰国後開始した活動です。しかし、外来の受診率は約2割とまだ低いため、受診率が低い原因を把握するための調査を行いました。プロジェクト現地スタッフの協力の下、電話によるインタビュー調査を行い、24人の赤ちゃんの家族から回答を得ました。インタビューの結果、約3割の家族がフォローアップ外来について知らないと回答しており、早産で生まれた赤ちゃんのフォローアップの重要性に関し、病院スタッフから家族へのさらなる教育活動が必要であることが分かってきました。この調査は引き続き12月にも実施を予定しており、得られた結果を集計してコンポンチャム州病院の新生児科医師にフィードバックしたいと考えています。

2．プロジェクト対象2州における新生児死亡調査の結果分析

日本では赤ちゃんが生まれたら市区町村の役所に出生届けを提出しますが、カンボジアを含む開発途上国では出生数や死亡数の登録システムは十分に機能しておらず、人口動態を正確に捉えることは困難です。プロジェクトは対象地域であるコンポンチャム州とスバイリエン州において、新生児死亡（生後28日以内の死亡）の数とその原因を調べるために、2017年1月から2月にかけて、無作為に選んだ120村の全世帯を訪問し調査を行いました。その結果、対象地域で同定された2015年1月から2016年12月までの新生児死亡数は、4,134出生のうち36例でした。36例の死亡症例に関しては、口頭検死という方法を用いて、さらに詳しいインタビュー調査を実施しました。

口頭検死は記録から死因を特定することができない場合に、近親者からのインタビューにより情報を収集し、死因を特定する方法です。インタビュー情報には、赤ちゃんが死亡するまでに家族が経験した詳細な過程や、実際に行われた治療など貴重な情報が多く含まれています。現在、これらのインタビュー情報を探索的に分析し、母子継続ケアの課題を同定する作業を行なっています。分析の結果は今後のプロジェクト活動に役立つよう、論文としてまとめて報告する予定です。

最後に、今回インターンとして活動する機会を与えて頂いた、JICA本部および現地事務所、プロジェクトの岩本チーフアドバイザー、林長期専門家、真崎長期専門家、ならびにプロジェクトチームの皆さまに心より感謝申し上げます。